

## 平成30年度第1回埼玉県南西部地域保健医療・地域医療構想協議会議事概要

### 1 日 時

平成30年7月12日（木）午前10時～11時30分

### 2 場 所

朝霞保健所2階大会議室

### 3 出席者

#### 【委員】

村山正昭委員、関谷治久委員、保崎輝夫委員、村田順委員、菅野隆委員、原彰男委員、鈴木義隆委員、富家隆樹委員、関則子委員、金谷泰宏委員、柳下譲次委員、久保健二委員、桑島修委員、三田光明委員、竹之下力委員、大森重治委員、加瀬勝一委員

#### 【オブザーバー】

管内市・町職員及び保健センター職員

#### 【事務局】

保健医療政策課職員、医療整備課職員、朝霞保健所職員

#### 【説明者】

独立行政法人国立病院機構埼玉病院

TMGあさか医療センター

イムス三芳総合病院

菅野病院

富家病院

#### 【傍聴人】

16名

### 4 議 事

(1) 会長及び副会長の選出

(2) 埼玉県地域医療計画第7次圏域別取組修正案について【資料1】

資料1に基づき、事務局から説明した。

(3) 病床機能報告（データ分析）について【資料2】

資料2に基づき、事務局から説明した。

Q. (委員)：しきい値について慢性期はどうか

A. (事務局)：慢性期を点数で分けるのは難しい（P3療養病棟、特殊疾患病棟）

Q. (委員)：算定の基のデータは何なのか

A. (事務局)：NDBを基にしている。（レセプトを保険機関に送り医療機関にデータをバックするもの）

Q. (事務局)：回復期についてどのような感想を持っているか

A. (委員)：回復期が足りないというが、正直不要だと感じる。

(委員)：回復期には制約が多い。アウトカムが重要である。数は今で充分。

(委員)：在宅復帰については結果を出せている。

(委員)：機能を区分することが重要なのではない。

(委員)：回復期リハは病床充分。

(委員)：入院基準が厳しいため、回転率を上げることが重要である。

(委員)：地域包括ケア病棟はサブアキュート及びポストアキュートの両面があり、使い勝手のいい病棟である。これを回復期と考えるのならば、病床は必要である。

Q. (事務局)：急性期についてはどうか

A. (委員)：7:1でみているが、高度急性期に入るのではないか。

(委員)：小児医療（45床）について、現在医師が10人いる。大規模でないと難しい。

(委員)：救命救急については、埼玉医大のバックアップを受けてやっていきたい。

(4) 公的医療機関2025プランについて【資料3】

資料3に基づき、独立行政法人国立病院機構埼玉病院から説明した。

Q. (委員) : 医師確保の問題点について

A. (埼玉病院) : 医師は150名いるが、もう20名位増員したい。看護師は今540名おり、いい具合だ。

(委員) : 医療資源は東京に流れているため危惧すべき

(5) 病院状況報告について【資料4】

資料4に基づき、各病院から説明した。

(6) 病院整備計画の公募について【資料5】

資料5に基づき、事務局から説明した。

(7) その他

特になし。